

# 小学校における英語活動の可能性

## 国際理解教育をベースにした英語活動の在り方

小学校における外国語活動研究会議

研修員 小川 淳一（川崎市立王禅寺小学校） 入沢 潤（川崎市立南百合丘小学校）

松本 真爾（川崎市立夢見ヶ崎小学校）

研修指導主事 佐藤 剛

## 主題設定の理由

国際化、情報化が急速に進展している今日、産業界を始め国際会議の席上やインターネット上において、多くの人がコミュニケーションを図るひとつの共通語として英語を使用している。

文部科学省は、小学校で英語を教科として教えることを本格的に検討する方向にある。現在、全国の小学校では、教科ではなく「総合的な学習の時間」を利用して英会話をする取り組みが広がっている。学習指導要領にとらわれず、カリキュラムを作る研究開発学校制度や構造改革特区制度を使い、英語を教科として教える試みをしている学校もある。ただ、全国の小学校で教科として扱うためには、教員免許の見直しなど大規模な態勢づくりや準備期間が必要となる。小学校への英語科導入については、依然大きな課題を残しつつ可能性は増してきていると考えられる。

このように、現在の不備な態勢の中で小学校で英語教育を進めていくことは、特別な例外を除き極めて受け入れがたい状況にある。しかし、英語を「総合的な学習の時間」の中で国際理解教育の一環ととらえ、英語活動として進めていくことは、子どもたちの思考を柔軟にし、自文化理解や他文化理解の大きな助けになると考えられる。

川崎市の小学校でも現在、英語活動としての実践を積み重ねている学校は年々増加の傾向にあり、ALT や EAF(English Activity Fellow、英語活動補助員)を活用しての英語活動を計画、実践している学校は100校を超える勢いである。

しかし、実態として、3・4年生で英語活動を経験した子どもたちの中には、高学年になると英語が楽しいと受け止められない子も増えてくる傾向にある。その要因としては、学習内容に深まりを感じることができず自分自身が進歩しているという達成感をもてないことが考えられる。

このような状況から、英語活動はまだ教科となっていないものの、「何を」「どのように」学ぶかということをも、もう一度系統的に考えてみる必要を感じ、上記のような研究主題を設定した。

## 研究内容

本研究会議では、英語活動の基本的な考え方・活動計画・活動内容や方法・教材等について具体案を作成し、提供できればと考え、以下の4つの内容に取り組んだ。

1. 国際理解教育の一環として行う英語活動の在り方について、分析・検討を行う。
2. 育てたい資質・能力や目標に基づいて内容や配置を考え、「年間指導計画案」を作成する。
3. 検証授業を行い、英語活動のあり方について確認すると共に「年間指導計画案」の作成に役立てる。
4. 作成した「年間指導計画案」を川崎市総合教育センターのイントラネット上において発信する。

研究内容 1

国際理解教育の一環として行う英語活動のあり方について、分析・検討を行う。

英語活動に関する様々な情報を収集し、分析・検討する中で、英語活動を通して子どもたちにどのような資質や能力を育てたいのか、改めて以下のように考えてみた。

育てたい資質・能力

多文化理解の能力

[目標]

中学年・言葉のちがいに気づき、その違いを楽しもうとする

高学年・生活や文化、習慣などの違いを知り、理解する

コミュニケーション能力

[目標]

3年・音を中心に身近なものの単語をたくさん聞く体験をする

4年・身近なものの単語をたくさん発音してみる

5年・日常的に使う言葉を聞き取る

6年・自分の言いたいことを英語で表現してみる

2つの資質・能力を育てるために...

[何を?] 子どもたちにとって身近なもの(言葉・生活・文化・習慣など)

または、それらの違いに気づけるようなもの

[どのように?] コミュニケーション能力を身に付けるための活動を通して

研究内容 2

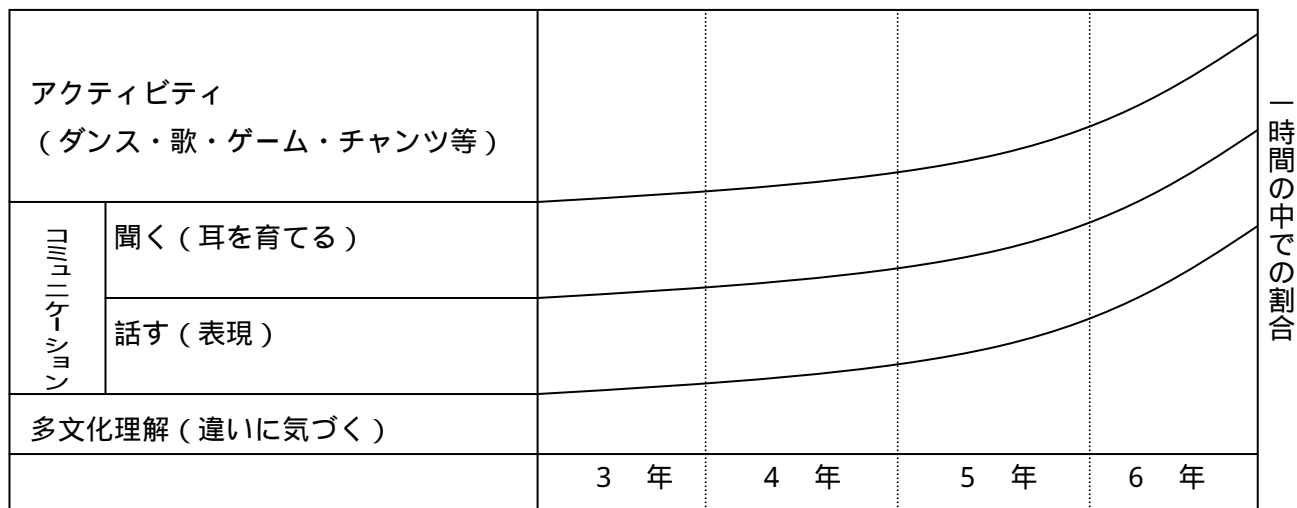
育てたい資質・能力や目標に基づいて内容や配置を考え、「年間指導計画案」を作成する。

研究内容 1 に基づいて作成した「年間指導計画案」は、下の通りである。

配当時間

- ・ 3～6年 各学年年間10時間程度
- ・ 30～45分程度の活動 月に1回程度
- ・ 20～25分程度の活動 月に2～3回程度
- ・ 10～15分程度の活動 月に3～4回程度

学年に応じた活動内容の割合



内容（題材一覧）

	3年	4年	5年	6年
【言葉のちがい】	1．あいさつ 2．数字 3．曜日 4．月 5．色 6．形 7．体の部分 8．食べ物 9．動物（名前・鳴き声） 10．文房具	14．方向 15．時間 16．動作 17．季節 18．乗り物 19．天気 20．衣服 21．学校案内（教室の名前） 22．施設 23．病気		
【生活習慣のちがい】			26．あいさつ 27．家族の呼び方 28．自己紹介 29．道案内（施設） 30．料理（味） 31．標識 32．単位 33．お金の数え方（買い物）	36．感情 37．計算（たし算・ひき算） 38．世界の国々 39．電話のかけ方 40．仕事 41．マナー 42．手紙の書き方
【遊び】	11．じゃんけん 12．Simon Says			
【行事】		24．クリスマス 25．ハロウィン	34．クリスマスカード	
【文化】	13．文学		35．紅茶の飲み方	43．文学
【音楽】				44．楽器
【スポーツ】				45．バスケットボール 46．野球

評価方法

行動観察による評価（名簿などの活用）

授業中の発言による評価

学習カードや感想カードによる評価（ワークシートなど）

留意事項

- ・内容（題材一覧）については、言葉や文化の違いに気付けるような内容を選んである。
- ・各学年、年間10時間を目安にして計画を立てている。
- ・音声を中心にしてあるが、高学年に進むにつれて、文字なども意識して学習できる内容を選んである。児童の実態に合わせて柔軟に対応したい。

研究内容3

検証授業を行い、英語活動の在り方について確認すると共に「年間指導計画案」の作成に役立てる。

## 英語活動学習活動案

学年・教科 3年「総合的な学習の時間」

題材名 動物クイズで遊ぼう (Animal cries)

- 題材目標
- ・簡単な歌や挨拶、動物に関するゲームを通して英語に親しんだり、友だちと関わったりする。
  - ・動物の鳴き声は、国によって違うものもあることに気付く。

教科との関連：国語「動物とくらす」

本時の展開

時		児童の学習活動	学級担任の支援・留意点・資料
10	歌	英語の歌をみんなで楽しく歌う。 “ Old Mcdonals Had a Farm ”	CDを用意する。 児童と一緒に楽しく歌う。
5	クイズ&ゲーム	動物鳴き声クイズをして、オーストラリアでの鳴き声を知る。 イヌ、ネコ、ウシ、オンドリ、メンドリ、カエル、ウマ ヒツジ、サル、カラス、ライオン、プタ MDに録音した鳴き声を聞いて、何の動物か当てる。	ピクチャーカードを出して、正解を知らせる。
10		動物鳴き声カルタをする。 4～5人のグループで鳴き声のしたカードを取り合う。 グループを変えて、2回行う。	グループの数だけ、取り札を用意する。
15		動物バスケットをする。 上記の中から4つの動物を選択し、鳴き声で行う。	で使用したカードを活用する。 日本と違う鳴き声の動物を選ぶようにする。
5	感想	今日の学習で初めて知ったこと、わかったことなどを発表する。	日本とオーストラリアでは、動物の鳴き声に違いがあることをおさえる。

Animal cries (noises)

Dog: woof

Frog: riddup

Lion: roar

Cat: meow

Horse: neigh

Pig: oink oink

Cow: moo

Sheep: baa

Chicken:hen bok bok

Monkey: iiii

Chicken:rooster.cock

Crow: ka ka

EAFの先生に、事前に鳴き声をMDに吹き込んでもらったものを使用する。

形

時間：45分

学年・教科 3年「総合的な学習の時間」

活動名 形さがしゲーム (shapes)

ねらい (多文化理解) いろいろな形の言い方があることを知る。  
(コミュニケーション能力・表現) いろいろな形を英語で表現する。

基本・語句 What shape do you like?  
I like ~(square/triangle/circle/rectangle)

準備するもの いろいろな形のカード 正方形 (square)・三角形 (triangle)・円 (circle)・長方形 (rectangle)  
子どもが5～6人くらい乗ることができる大きさの紙 (新聞紙、模造紙など)

時間	児童の活動	担任の指導・支援	EAFの指導・支援
2	EAFとあいさつをする。 ゲームをする。「Simons says」	一緒にあいさつをする。  一緒に活動する。	児童にあいさつをする。 T1として児童に指示する。 [Stand up] [Sit down] [Touch your head/shoulder/ nose/ toes/eyes/ears/mouth/ nose]
5	形の言い方を知り、発音する。 EAFに合わせて、児童が形の発音をする。 [square][triangle][circle][rectangle]	EAFに形の名前を質問する。[What is this?]	ex. [It's square.] 形の名前を発音をする。
10	気が付いたこと・初めて知ったこと・聞いたことがあることなどを発表する。	T1として、児童に発言させる。	
15	自分の好きな形を言う。 HRTとEAFのデモンストレーションを見てから、EAFの質問に答える。 [I like ~(square/triangle/circle/rectangle)]	EAFに質問する。	一人ずつ児童に質問する。 [What shape do you like?] 答えられたら握手をする。
25	「形さがしゲーム」をする。		
40	音楽をかけている間、自由に歩き回る。途中で音楽を担当が止める。子どもが全員で「What shape do you like?」と声をそろえて聞く。EAFが、「I like ~(square/triangle/circle/rectangle)」と大きな声で言う。子どもたちは、先生が言ったカードを探し、その上に乗る。乗れた子はセーフで、乗れなかった子や他の形に乗った子はアウト。2～3回行い、最後に残った子にみんなで拍手をする。答える役を子どもにもさせる。カードを破ったり、ルールを守らなかったり、友だちを押した子はアウト。	表現が難しければ、合図の後に「square!」とだけ言うようにする。	児童とあいさつをする。
	終わりのあいさつをする。 「Thank you very much.」「See you.」		

【考察】

- ・ネイティブ・スピーカーがいる方が効果があるが、学級担任のみでもCDなどの音声教材を用いることで、学習することはできるという手ごたえをつかむことができた。
- ・単なるゲームや歌のみで終わらせず、言葉のちがいに気付けるような活動が、多文化理解に大いに役立つことが確認できた。

#### 研究内容 4

作成した「年間指導計画案」を、川崎市総合教育センターのイントラネット上において発信する。

研究内容 2 において作成した年間指導計画に基づいて、各活動の略案等も作成し、イントラネットに掲載していく予定である。

## 研究のまとめ

わずか 1 年間という限られた期間の中ではあったが、具体的な「年間指導計画案」の作成や検証授業を通して、本研究会議として一つの提案にまとめることができた。以下、その成果と課題についてまとめた。

### (1) 研究の成果

ゲームや歌を中心とする様々な英語活動が先行する中、多文化理解を意識した「年間指導計画案」を提案することにより、学ぶ内容を明示することができ、授業での活用が期待される。各学校において授業を組み立てる際、この案がいくらかでも参考になればと考えている。また、各活動案についても、学校や児童の実態に合わせて修正しながら活用していけるようなイントラによるシステム構築の目途が立ってきた。

### (2) 今後の課題

できる限りネイティブ・スピーカーとの交流を望みたいところだが、実際にそれが不可能な時にでも活動できるような内容を考えた。しかし、1 年間という期間の中では、その全てを検証することが困難であったため、実際の活動に際しては、各学校の創意工夫に委ねる部分が大きいことが課題として残った。

また、コミュニケーション能力と安易に使っている言葉の意味についても、今後更に吟味し、共通理解を図っていくことが大切であろうかと思う。

また、ネイティブ・スピーカーの代わりになるもの（CD などの教材）の具体的な提示ができなかったことも課題である。現在、様々な会社から多種多様の教材が出ている中、その一つ一つを吟味して提案することは困難であった。この点については次年度以降、様々な学校で評価を得ている教材や自己開発したものを紹介することが期待される。

本研究を進めるにあたり、適切にご指導、ご助言をいただいた先生方、研究をご支援いただいた研修員所属校の校長先生をはじめに教職員の皆様に心からお礼を申し上げます。

### 【参考文献】

- |   |        |
|---|--------|
| 松川 禮子『小学校に英語がやってきた！』アプリコット                            | 1997 年 |
| 影浦 攻『オピニオン叢書 64 小学校英語 66 研究開発学校の取り組み全情報』明治図書          | 2000 年 |
| 後藤典彦・富田祐一編著『はじめてみよう！小学校・英語活動』APRICOT                  | 2001 年 |
| 吉村 峰子編著『教育技術MOOK 英語で国際理解教育小学校 3・4 年版』小学館              | 2001 年 |
| 吉村 峰子編著『教育技術MOOK 英語で国際理解教育小学校 5・6 年版』小学館              | 2001 年 |
| 『小学校英語活動実践の手引き』文部科学省                                  | 2001 年 |
| 『さいわいタイム英語活動 学習活動案集』川崎市立幸町小学校                         | 2002 年 |
| 『英語活動公開授業研究会資料』川崎市小学校国際教育研究会                          | 2003 年 |
| 「改訂版総合的な学習の時間のための教師用指導書 Let's Enjoy English」綾瀬市立寺尾小学校 | 2003 年 |

### 【指導助言者】

川崎市教育委員会学校教育部指導主事

小池 優一